
東北大学陸上競技部

OB・OG通信

2015年No. 6 (2015. 11)

- ・ 第 30 回国公立 25 大学対校陸上競技大会
男子総合 13 位、女子総合 18 位
 - ・ 秩父宮賜杯第 47 回全日本大学駅伝対校選手権大会
5 時間 45 分 46 秒で総合 24 位
 - ・ 出雲全日本大学選抜駅伝競走
東北学連選抜として高橋(4)、本間(3)、出口(3)が出場
-

- ・ 秋季三秀総会のお知らせ
日時：12 月 6 日 (日) 16 時～ (幹事会 15 時～)
場所：新宿 ビアレストラン ライオン会館
-

- ・ 第 27 回出雲全日本大学選抜駅伝競走 2～3 ページ
- ・ 秩父宮賜杯第 47 回全日本大学駅伝対校選手権大会 4～8 ページ
- ・ 第 30 回国公立 25 大学対校陸上競技選手権大会 9～16 ページ
- ・ 第 44 回東北学生陸上競技選手権大会 17 ページ
- ・ OB・OG 対現役対抗戦 18～22 ページ
- ・ 秋保マラソン 22 ページ
- ・ 秋季三秀総会のお知らせ 23 ページ
- ・ 自己ベスト更新者 24 ページ
- ・ 今後の予定 24 ページ
- ・ 編集後記 24 ページ

向冬の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、秩父宮賜盃第 47 回全日本大学駅伝対校選手権大会の結果を中心に、各大会における選手の活躍をお伝えします。

◎第 27 回出雲全日本大学選抜駅伝競走(10/12)・出雲大社～出雲ドーム(島根)

昨年は台風の影響により中止となった出雲駅伝ですが、今年は無事に開催され、地方学連選抜を含む 21 チームにより争われました。東北大学からは、田中(M1)、高橋(4)、本間(3)、出口(3)の 4 人が東北学連選抜として選ばれ、当日は高橋、本間、出口が出場しました。選手のコメントを掲載します。

第 3 区 出口 武志(3)

先日の出雲駅伝では 3 区を走らせていただきました。去年は台風で中止になってはしまいましたが、補欠であったので今回はメンバーに選んでいただくことができ代表選手としての緊張感に身の引き締まる思いでした。現地で試走や刺激をしていると周りは関東の有名校ばかりで、また 3 区を走る選手の持ちタイムを見てみると自分よりも速い選手ばかりで全国のレベルに圧倒されていたわけですがいざ走ってみると、流石に実力差の圧倒的な選手には遠く及びませんでした。自分よりも持ちタイムの良い選手とも勝負をすることができ大きな自信になりました。やはり全国区の大会で強い選手を見て、その雰囲気を感じると競技に対するモチベーションが上がります。次の大会はいよいよ全日本大学駅伝となるのでやる気も調子も上げていってしっかり大会当日にあわせていきたいと思えます。出雲を走るにあたり、本当にたくさんの方に声をかけていただき元気が出ました。応援ありがとうございました。

第 4 区 本間 涼介(3)

この度は東北学連選抜にて 4 区として出雲駅伝に出場させていただきました。

昨年は、高校生のころから夢に見ていた出雲駅伝で、あともう一步のところまで走れるところでした。しかし台風と重なってしまい、初の大会中止という事態になりました。昨年も 4 区をいただいていたので、たいへん悔しい思いをしました。同時に、来年は必ず戻ってこようと心に決めていました。

そして今年、再び東北学連選抜のメンバーに入ることができ、4 区をいただきました。チームの目標としては、選抜チームで 1 位でした。それを達成するためにも、自分の区間でも選抜チーム中区間 1 位を目標に走りました。私の区間の沿道では東北学連選抜を応援してくださる地区の方々がいっぱいいました。大きな横断幕を掲げて応援していただき、夜のレセプションにおいてもたいへんお世話になりました。

結果としては、区間では選抜チーム 1 位ではありませんでしたが、チームとしては後方の北信越学連選抜に 15 秒の差をつけ、学連選抜チーム中 1 位でした。しかし、他の地区、特に関東や関西の大学との差は大きいです。

今年も東北大学が予選会を勝ち抜いて全日本大学駅伝に出場します。まずは私たちが個人として力をつけることが、東北地区全体のレベルアップにつながると思います。その中

の1人として私も残り1年トレーニングに励んでいきます。応援ありがとうございました。

第6区 高橋 佳希(4)

10月12日に行われた出雲駅伝のほうに3回目の東北学連選抜の一員として出場しました。当日はアンカーで最長区間である6区(10.2km)を任されました。昨年この区間を走ることになっていましたが、台風で異例の中止となってしまい、今年はお出雲路を走れる喜びを感じていました。結果は個人では区間17位で、一昨年3区で出場させてもらったときよりも少し区間順位は上がりましたが、やはりトップクラスの選手との力の差を見せつけられる形となってしまいました。しかしながら、チームとしては目標であった地方選抜チームの中で1番になるという目標は達成できたので、最低限の仕事は果たせたと思っています。

今回の大会で得た経験をしっかりと活かし、チーム最大の目標としている全日本大学駅伝でよい走りができるように調整していきたいと思います。

最後になりますが、このような全国規模の大会に3度も出場させてもらえることに感謝しながら、少しでもチーム、そして東北地区の長距離のレベルアップに貢献できるように頑張りますので引き続き応援よろしくをお願いします。

◎秩父宮賜盃第 47 回全日本大学駅伝対校選手権大会(11/1)

・熱田神宮(愛知)～伊勢神宮 (三重)

東北大学は 9 月 23 日に行われた東北地区予選を通過し、3 年連続 10 回目の本大会出場となりました。チームの目標であった東北大学記録の更新はなりませんでしたが、昨年より総合で 1 分 22 秒速い 5 時間 45 分 46 秒でゴールし、着実に力をつけていることを示したレースとなりました。出場した選手のコメントを掲載します。

第 1 区 出口 武志(3)

先日は全日の一区を走らせていただきました。去年は故障をしてしまい一年間悔しい思いをしていたので今年は全日をかなり意識して練習や大会に臨んでいました。しかし、まさか一区を走らせていただけとは思っていなかったのととてもうれしかったのですが、それだけでなく大きな不安も抱えて緊張した状態で全日本番には挑むことになりました。一区はレースの流れを左右する大事な区間であるので「くずれない走り」を第一に考えて、そのうえで 3'15"/km をオーバーしないように、また競ることができるだろうと考えられる他大にあまり離されすぎないようにということを考えてレースを組み立てました。本番の展開は僕が早い段階で先頭集団から落ちてペースを維持して走りながら他大を追い上げていくという予想通りの形で、タイムも目標を上回ることができました。しかし、思いのほか他大の選手が潰れずに粘ったため最後尾から二番目で襷を渡すという結果になってしまいました。周りの選手は自分より格上の選手であることはわかっていたし、自分が現段階で持っている力はすべて出し切ることができたレースだと思うので悔いはありませんが、しかし今の自分の全てをぶつけてこの結果ということに対するふがいなさや順位に関して部の皆さんへの申し訳なさはあります。来年は一区を走りたいという選手が多いですし、来年僕は四年生なので先の読めない部分はありますが、更に力をつけて来年も一区を任せていただけるだけの力をつけたいと強く思いました。

今年の全日も OB・OG の方々や現役部員の皆さんなどたくさんの方からの関係者の方からのご支援があったからこそ出場することができたのだといろいろな場面から感じました。本当にありがとうございました。

第 2 区 本間 涼介(3)

2 区を走らせていただきました本間です。今回はキャプテンとして、そして前半区間としてこれまでとは違う思いをもって走りました。去年、一昨年と 6 区、4 区を走らせていただきましたが、思うように走れず悔しい思いをしてきました。しかしこれで 3 回目、もう失敗は許されない、前半で良い流れを作っ



▲ 1 区を任された出口



▲ 2 区を駆ける本間

ていかなければならないという意志を持って臨みました。1 区の出口は信州大に食らいつき、見える位置で襷を繋いできてくれました。しかし 2 区の信州大の選手は想定以上に早いペースで、もう見えないうらまで差を広げられてしまいました。私が走り終わった時点では昨年のタイムを上回っていたのですが、周りの大学はそれ以上に成長しています。今年度で院 2 年の先輩が多く引退してしまい、全体の力の低下は必至であるのが実情です。来年は私たち若い学部生の底上げが必要だと痛感しました。また来年、最後の年こそは力を出し切れるレースができるよう再びトレーニングを積んでいきます。最後になりましたが、多くのご支援ありがとうございました。

第 3 区 田中 直樹(M1)

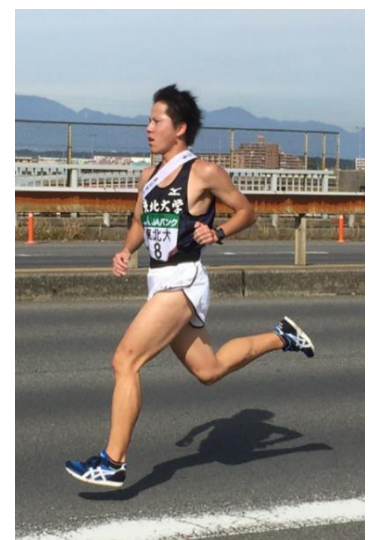
3 区を走らせて頂いた M1 の田中直樹です。大学院からこの東北大学に入学し、陸上生活の中で初めて全国舞台の駅伝で走ることができたことにまず感謝したいと思います。今年の 7 月から膝の怪我に悩まされ予選会ではメンバーにすら入れず、選抜として選ばれた出雲駅伝でも選手として参加することができず、本当に悔しい思いをしました。ただ怪我やメンバー落ちのおかげか自分の競技に対する気持ちを見直し練習に対する姿勢も大きく変えた結果、なんとか選手として間に合わせることができました。結果としては 30 分 31 秒の区間 26 位で 30 分を切るという目標を達成することはできませんでした。しかし繰り上げタスキをかけて走る選手が多いこの全国の駅伝で 1 区の出口、2 区の本間がつないでくれた東北大学のタスキをかけて走れたことは本当に力になり、何度もあるアップダウンでも気持ちを切らすことなく、現状での自分の走りをするにはできたと思っています。それと同時に繰り上げになってしまい、タスキを渡すチームメイトがいないのは本当に悔しくもありました。大学院に来る前、全日本大学駅伝を走るなら 1 区を走りたいとずっと思っていたため、学生ラストシーズンとなる来年はエース区間である 1 区を走れるような選手に成長し、東北大記録の 5 時間 41 分を更新したいと思います。最後に遠くから応援に来てくださった OB・OG の皆様、またパートを超えて声援をくれた陸上部の部員に感謝したいと思います。本当にありがとうございました。



▲スパートをかける田中

第 4 区 古澤 哲平(M2)

先日の全日本大学駅伝にて、第 4 区を走らせて頂きました古澤哲平です。去年は 3 区を走りましたが、納得のいく走りをする事が出来ず悔しい思いをしたため、この 1 年間この大会に全てをささげる思いでこれまでがんばってきました。先頭が昨年よりも速く、私の区間から繰り上げスタートになりチームの襷は途切れてしまいましたが、この襷を次の区間に届ける気持ちで走りました。第 4 区は 14.0km と距離の長い区間であるため、前半は落ち



▲安定した走りの古澤

着いたペースで入りました。途中から 1 人で走る苦しい展開になりましたが、後半 10km は自己ベストよりも約 1 分速いタイムで走りきることができました。コンディションがよく走りやすい気候だったこともあります。最後の伊勢路で自己ベスト以上のタイムを出すことができたのは、一番苦しい所でもらう沿道からの応援のおかげだと思います。また、個人的にも同期である M2 の 2 人と一緒に伊勢路を走ることができ、とても思い出の残る大会となりました。

また来年は、昨年同様今年も伊勢路経験している多くの院生が卒業します。来年こそはよりチームの若返りが求められますが、新しいチームとして大学記録の更新を目指し、成長した姿を披露してくれるはずです。私も、来年以降は寄付金や応援など全力でチームのサポートをしたいと思います。

最後になりますが、遠方から応援に来てくださった OB・OG や陸上部員の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

第 5 区 藤澤 萌人(M2)

全日本大学駅伝の 5 区を走りました藤澤萌人です。私はこれまで 2 回全日本大学駅伝に出場する事ができ、そのどちらも 2 区を走らせていただきました。そのため今回は初めて 2 区以外の区間を走るということで、違った景色の中で走ることができるととても楽しみにしていました。当日は幸なことに天候も良く、1 区から昨年を上回るタイムで試合が進んでいたため、東北大記録の更新、東北大の 5 区区間記録更新を目標に気合いを入れて走りました。私のレースは終始信州大との戦いとなりましたが、落ち着いて走ることができ、ペースも尻上がりに速くなっていきました。最後のスパートで負けはしましたが、私としてはとても良い走りができ、わずかながら区間記録を更新することができました。今回のレースでは、5 区には 8km 過ぎに一番の上り坂があるのですが、その手前で後輩たちが応援してくれたことでギアを入れ替えてペースを落とさずのぼれたことが一番印象に残っています。残念ながら今年も東北大記録を更新することはできませんでしたが、昨年よりもタイムは向上し、年々力が付いてきていることを実感することができました。私は今年で最後になりますが、東北大がこれからも全日本大学駅伝に出場し続け、部記録を大きく更新してくれることを願っています。最後になりますが、この度は OB・OG の皆さまに多くのご支援をいただき、また陸上部のパートにかかわらず多くの仲間達に応援、サポートをしていただけたことをとてもうれしく思っています。ありがとうございました。



▲信州大と競り合う藤澤



▲粘りを見せる笠間

第 6 区 笠間 淳平(1)

今回の大会は、決して調子が悪かったわけでも、大失敗をしたレースだった訳でもなく、ただただ、実力が足りないという最も

決定的な部分で、自分の力不足を痛感させられました。目の前を走る信州大学の選手にすら、徐々に徐々に離されていき、ペースが一気に落ちてしまったラップもありました。しかし、前の区間を走ってくださった先輩方が、昨年のタイムを上回ってきていたため、今の自分の最大限を出そうと、心が折れることなく、第六中継所を目指すことができました。また、沿道までかけつけてくださった同輩、先輩方、OB・OGの方々、一般の方々の声援には何度も励まされ、足を前に出すことができ、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。今回肌で感じたのは、全国の舞台の雰囲気や実力だけではなく、自分の力不足です。来年も同じ舞台で、目標の達成ができるように、これから厳しい時期にはなりますが、努力していきたいと思います。

この度は、ご支援・ご声援等、本当にありがとうございました。

第7区 齋藤 寛俊(M2)

私はこの度7区を走らせていただきました。全日本大学駅伝を走るのは一昨年引き続き2回目でした。一昨年出場した際にはチームとしても個人としても目標の歴代最高記録には遠く及ばず、またリベンジしたいと思いその後練習を続けてきました。しかし怪我続きで昨年は選手として出場することができず、本年も春、夏とほとんど練習を積めないまま秋を迎えることとなってしまいました。しかし大会直前の2~3ヶ月は今までの経験を活かして練習計画をしっかりと立て、最後まで諦めず量・質ともに高いレベルの練習を継続して追い込みをかけた結果、幸いにもこの度選手として選んでいただくことができました。

今回もやはりチームの目標は歴代最高記録の更新であり、個人としてもその目標の達成に貢献できる区間記録を出すことを目標に大会に臨みました。当日は理想に近いレース展開で走ることができ、直前の追い込み練習の成果も十分発揮することはできましたが、区間記録は歴代最高記録の水準よりは低く、練習不足が悔やまれる結果となってしまいました。

残念ながらチームとしても目標を達することはできませんでしたが、昨年と比べると各々が自分の持っている力をよりよく発揮し、総合記録を縮めることができました。その点はチームとして成長が感じられた部分だと思います。ただ、長期的な意味では今回はベストな状態で大会を迎えられた人は少ないのではないかと思います。各々が自己ベストを更新することも当然重要ですが、長期的なピーキングを改善することで更に大きく記録を縮めることが十分可能だと個人的には思っています。来年はそのような反省点を活かしつつ各々が更に力をつけて歴代最高記録を更新してほしいと思います。

最後になりましたが、今回の大会では長距離の仲間、他パートの皆様、OB・OGの皆様、保護者の皆様など多くの方々に応援やご支援いただき、不自由なく大会を終えることができました。この場をお借りして感謝申し上げます。ありがとうございました。



▲7区を力走する齋藤

第8区 高橋 佳希(4)

11月1日に行われた全日本大学駅伝の8区を走らせていただきました高橋です。今年は何度目の出場、かつ何度目の最長アンカー区間である8区を任せていただき、四年目の集大成となる走りをして、チームの目標である東北大学記録の更新に貢献しようと意気込んでおりました。

しかしながら、結果のほうは去年より2分以上悪いタイムで、区間順位も下から二番目と言う最低の走りをしてしまいました。もし、しっかりと繰り上げスタートの集団についていければ自己記録の更新、さらにはチームのゴールタイムも去年より3分以上更新できたことを考えると、悔しい気持ちと同時に申し訳ない気持ちでいっぱいです。これからは、まずリベンジするチャンスを与えていただけるように、練習のほうをコツコツと続けて、来年の伊勢路では最高の走りがしたいと思います。

最後になりますが、試走や当日の応援、金銭面などでの支援をしてくださったOB・OGの方々に感謝申し上げます。今後ともよろしくお願ひします。



▲アンカーを務めた高橋

<本間 PC による今大会のまとめ>

長距離パートキャプテンの本間涼介です。今年『東北大学記録(2004年)の更新』を第一の目標におき、第二に『他の地方大学(特に信州大)に勝つ』という目標のもとレースに臨みました。

レースは序盤の1区、全体的にスローペースで入り、なんとか粘って昨年よりも約50秒早く襷を繋いでくれました。2,3区では前が見えないところまで引き離され、最下位となりました。エースの絶対的な力の差が出てしまったと思います。ただしエースがいない分、総合力があります。繰り上げ後、札幌学院大が徐々に崩れ始め、結果としては10分以上差をつけました。これは後半区間にも相対的に力のある選手を置けるという、東北大の強みだと思います。今回は院生の活躍が目立ちました。しかし、今年で今回走った3人が卒業してしまい、学部生の力の底上げが必須です。来年も確実に予選会を突破し、この舞台に帰ってきて戦えるよう、新PC酒井のもとで部員一同励んでいきます。

最後になりましたが、OB・OGの方の様々な形でのご支援があったためにこの大会に出場することができました。本当にありがとうございました。



▲本間・前PCから酒井・新PCへの襷渡し

◎第30回国公立25大学対校陸上競技選手権大会(10/10～12)

…とうほう・みんなのスタジアム(福島)

今年も参加校が増え、25大学による対校戦となった今大会。東北大学の選手たちは夏の練習の成果を発揮し、健闘しました。対校戦に出場した選手たちの観戦記を掲載します。

男子100m 予選

1組5着 藤井佳祐(2) 11"11(+2.9)

スタートの飛び出しは普段より良く前傾も悪く無く滑らかな加速が出来ていた。だが後半上半身のバラ付きが見え、減速していた。5着でゴールした。

2組9着 高橋圭一郎(2) 11"39(+0.9)

スタートは悪くなかったが、中盤で上半身がやや後傾し、足のリカバリーが遅れた。後半は後傾が改善され、リラックスして走れた。

8組5着 櫻井直輝(3) 11"36(+1.4)

スタートから飛び出すことが出来た。しかし焦りがあったか、後半は後傾し、若干スピードをキープ出来ず、結局5着でゴール。

男子100m 準決勝

1組9着 藤井佳祐(2) 11"23(+0.8)

予選よりはスタートの反応が悪かったが前半は周りについていくことが出来ていた。しかし予選と走高跳で疲れたためか後半はバラバラな動きをしていた。9着でゴール。

女子100m 予選

2組6着 吉村梢(2) 13"27(+0.7)

スタートは落ち着いていて、スムーズに加速していったが、周りに置いていかれてしまった。後半もピッチは落ちないもののストライドが伸びきらず、組6位でゴール。準決勝進出はならなかった。

男子200m 予選

4組7着 津嶋優希(2) 23"33(+1.9)

スタートから出遅れほぼ最下位で直線に入った。その後も動きが固く小さくなってしまい、追い上げられず7着でゴール。

5組8着 大衡竜太(2) 23"53(+2.3)

スタートからうまく加速できず苦しい展

開。カーブを抜けてからも力んでしまったか伸びのある走りができずそのまま8着でフィニッシュ。

6組3着 阿部耕大(3) 22"56(+0.5)

まずまずのスタートを切り、前半のカーブはトップに付いていく形になった。コーナーを曲がったところからうまい具合にスピードに乗ることができず、他の選手に引き離されてしまい3着でゴール。

男子200m 準決勝

2組7着 阿部耕大(3) 22"68(+0.8)

スタートの反応はよかったが、いつもの切れがなかった。カーブを抜けた時には苦しい展開であり、ラストの直線はスピードを維持できたものの前半につけられた差を挽回できずに7着でゴール。

女子200m 予選

1組5着 吉村梢(2) 27"00(+1.8)

スタートから勢いがなく、スピードにのれなかった。そのまま直線に入り、粘り切れず減速し、組5位でゴール。準決勝進出にはならなかった。

男子400m 予選

1組3着 南共哉(M2) 50"55

9レーンと大外からのレース。スタート直後にスムーズに加速し、バックストレートを大きな走りでレースを進める。力強さは影を潜めたものの、軽やかなフォームは健在である。しかし、今シーズンは十分に練習をこなせていないこともあり、徐々に遅れをとる。ホームストレートに入り、ラストスパートをかけるも先頭には追い付かず3着でフィニッシュ。着順ではないものの、見事にプラスで準決勝進出を果たした。

2組7着 竹原大(4) 52"86

スタートはうまく決まり、コーナーから直線にかけて加速していく。直線は強風もあり、苦しそうに走っており、動きが少し固かった。ラスト150で動きがばらつき始め、直線では完全に足が止まってしまった。

4組5着 矢川省吾(2) 51"53

はじめの100mはうまく加速に乗ることができ、そのままバックストレートをテンポ良く走り抜けることができた。第三コーナーを抜けたところから体が重くなりホームストレートに差し掛かった頃には完全に減速。続々と順位を落としてしまい、全体の5着でゴールした。

男子400m 準決勝

1組8着 南共哉(M2) 50"53

いつものようにスタートするもキレがない。今シーズンの100m、200mのタイムを見てもわかるとおり、スピードが戻っていないため、他の選手に後れをとる。その後れを取り戻せないままフィニッシュ。レース後は暫くレーン内に留まり、最後のレースの雰囲気を楽しんでいるようであった。

女子400m 予選

3組5着 加藤かあら(3) 1'00"80

スタートから動きが硬く、前半で周囲から遅れをとる。200mを過ぎたあたりで既にトップと大きな差があり、そのままずるずるとゴールへ向かう。全体的に動きの悪いレースとなってしまった。

2組6着 佐々木千歳(1) 1'02"34

前半はスムーズに加速するが、バックストレートで周囲に遅れをとる。200m過ぎたあたりから、足の回転が遅くなり、ラスト100m粘るも前の人との距離は縮められずそのままゴール。

男子800m 予選

3組2着 佐藤宏夢(1) 1'59"79

スタートからスローな展開となり、最後方からレースを進める。300mを過ぎてからややポジションをあげ、400mを60秒で通過。

600付近からペースが上がるが、うまく位置取り争いをぬけだして2番手につき、残り120mで仕掛ける。ラスト40mくらいややスパートが切れるも、2着で予選を通過した。

5組3着 松田将大(1) 2'00"18

1周目は3番手に着いた状態で58～9秒で入る。バックストレートで位置取りが激しくなるが、3番手を維持する。ラストの直線にはいって4番手の選手に並ばれるが、ペースが落ちてきた2番手の選手をラスト50mで抜かして3着でゴール。

6組5着 荒田啓輔(1) 2'01"58

初めの200mはいいペースで入れたが、200mを過ぎた直後にスピードを急激に落とし過ぎてしまった。その後500m地点までは同じ位置で走り、後ろから飛び出した人について行こうとしたが、思ったよりすぐ失速したため、自分のスピードを殺してしまった。全体を通して無駄なスピードの変化で余分にスタミナを消費してしまった。

男子800m 準決勝

2組7着 松田将大(1) 2'01"68

予選の約2時間後のレースに対応できず、序盤から苦しいレースになる。集団後方に着いて1週目を58秒で通過したが、500m付近からの先頭のスパートに着いていけず離されてしまい、7着でゴール。

3組6着 佐藤宏夢(1) 2'00"16

外側からのスタートで、2列目、4番手くらいでレースを進める。一周目は59秒。そのままのペースで600を通過して、一気に集団のペースが上がるが、動きにキレがなく全く対応できず、足が止まってしまう。結局6着、2' 00" 16でフィニッシュした。

女子800m 予選

2組5着 飯田夏生(1) 2'29"70

序盤からハイペースな展開となったが、果敢に前についていく。2周目にその疲れが出たが、粘りを見せて、ゴール。プラスで準決勝進出を果たした。

5組5着 井出桃愛(4) 2'41"46

スタートして遅めのペースで一周目を通過。後半の二周目になってもスピードは上がらずにゴールとなった。

女子800m 準決勝

3組6着 飯田夏生(1) 2'31"58

全力で予選に挑んだ疲れから、一周目は動きが鈍く、スピードに乗り切れない。二周目に入ってからあまりペースを落とすことなく粘ることができたが、6着でゴールとなった。

男子1500m 予選

1組4着 佐藤宏夢(1) 4'13"07

スタートからスローな展開となる中、焦らず真ん中より後方からレースを進める。1周目は70、2周目は71。その後徐々に、ペースが上がり、外側に位置取るがなかなかポジションを上げられず、3周目を64で通過。ラスト300での先頭のスパートに反応できず、4着、4'13"台でのゴールとなった。

3組4着 三上和樹(M2) 4'02"71

全四組中走力のある選手が集中したこの組ではハイペースでの展開が予測された。予想通りハイペースになり、一周目を63秒で通過。1000m通過は2分43秒と、先頭に離されながらも徐々に前の選手を回収していく。ラスト300mでスパートをかけ、4着でフィニッシュしプラスで拾われ決勝に。

4組5着 西京毅(3) 4'08"12

レースを最初から引っ張る展開。600m通過からペースが落ち、1100mからラストスパートをかけるが、間に合わず4着でゴール。

男子1500m 決勝

7着 三上和樹(M2) 4'02"72

予選同様、後方からのスタートとなる。一周目を63秒で通過し、予選の疲れが現れた選手は次々と落ちていく。先頭から離されながらもペースを維持し、1000mを2分43秒で通過。ラストで前を走る2人を抜き7着でフィニッシュ。2点をもぎ取った。

女子1500m 予選

1組7着 宮間志帆(4) 4'56"90

集団の中盤あたりでレースを進める。2周目で集団から少し遅れ、なかなか差を縮められない。しかし、最後まで大幅にペースを落とすことなくラスト100mで前から落ちてきた1人を抜き7着でフィニッシュ。

2組7着 飯田夏生(1) 5'09"43

スタートからレースを引っ張る展開となる。最初の1000m地点までは先頭を維持したが、ラスト1周は粘れず先頭についていくことができなかった。前半の疲れもあり、そのまま追い上げることができなかった。

女子1500m 決勝

11着 宮間志帆(4) 4'55"62

決勝進出者の中で、予選は最下位のタイムであったが、入賞を目標にレースに挑んだ。しかし1周を通過する頃には徐々に集団から遅れ始め、単独走となってしまった。苦しいレースとなり、ラストに何とか1人を抜き11位でゴールした。全く勝負出来ずスタミナ、スピード、そして練習不足を露呈したレースとなってしまった。

男子5000m 決勝

1組1着 古澤哲平(M2) 15'38"66

1組10着 安西聡(3) 16'39"21

1組12着 熊谷駿(3) 16'42"53

スタート後、他大の選手が先頭に飛び出す。安西がその少し後方を走り、1000mを3'07で通過。古澤と熊谷も集団の中で、3'10前後で通過。安西が古澤の後ろに下がり、古澤は2000mまで2位集団を引っ張る。熊谷は2位集団から離れ、安西の7秒ほど後ろで4人の集団で走る。古澤は2000m通過後にペースをあげ、3000m付近で先頭に追い付く。1周競り合ったのち、古澤が前に出て独走となる。安西は2000m通過後、周囲の選手と競りながら3'20/kmを少し超えるペースで粘る。熊谷はその後方の集団で我慢の走りを見せる。終盤は、古澤が独走のままトッ

プでゴール。安西は序盤飛ばした疲れからか、ラストをあまり上げることができずにゴール。熊谷は残り1000mでペースを上げて集団を抜け出す。ついてきた選手と競りながら安西に迫るが、追いつけずにゴール。自己ベストを10秒更新した。

女子5000m 決勝

11着 榊原真璃子(4) 18'59"08

13着 梶山あずさ(4) 19'13"35

榊原は、スタート後2位集団につく。集団後方につきながら1000mを3分35秒で通過。順当に前方の選手を抜かしていく。しかしながら、3000m通過辺りで失速。給水を取る。ラスト1000m、スパートをかけるも、前半で抜いた首都大に抜き返され、組11着でフィニッシュ。

梶山は、スタートから後方につき、抑えめで最初の1000mを入った。その後、徐々に周りのペースが落ち始めたため、少しずつ順位を上げることができた。しかしラスト1000mでペースを上げることができなかった。全体としてはペース配分が上手くできたため、実力を発揮できたようだ。

男子110mH予選

1組2着 工藤翼(2) 15"45

スタートで出遅れて力のある選手に前に出られて動揺してしまったことでいつものハードリングと走りができなかった。風のわりに記録が出せなかった。

2組2着 本間大輔(M1) 15"15

1台目の入りは全体でほぼトップ。その流れでハードルを越えていくが、3台目を越えたあたりから一番の選手と差が開いていく。一番の選手と比べると、後半のハードル間のピッチが明らかに遅い。しかし、結果は自己ベストを更新し、2着でゴール。

5組4着 楠木啓介(2) 16"03

スタートで出遅れてしまい、周りとの差をつけられてしまった。後半巻き返して組4着でフィニッシュ。準決勝進出を決めた。

男子110mH準決勝

1組3着 本間大輔(M1) 15"43

1台目の入りは予選に比べやや勢いがなかった。全体的にハードルに足をぶつけた回数は予選より多く、前半3台でスピードを上げることができず失速した。予選より0.3秒近く遅くゴール。ラウンドがあがったときにタイムを上げられるかが課題であろう。

2組5着 楠木啓介(2) 15"75

予選の時よりスタートを改善したため、スタートはまずまずの出だし。しかし、2台目、3台目と周りの速い選手に差を広げられてしまった。後半も差を埋めきれず5着。課題は3台目までの加速であろう。

3組4着 工藤翼(2) 15"31

予選の失敗を活かし前半は良かったが、後半のハードリングが浮いてしまい最後で他の選手に追いつかれる展開となった。

男子400mH予選

4組5着 楠木啓介(2) 57"90

スタートからスピードを上げて行ったが、前半はハードルと足が合わず少しロスしてしまった。後半9台目から歩数が増えてしまい、スピードを落としてしまった。

5組4着 小幡卓哉(3) 55"96

前半はスローペースで入り、6台目から切り替えてペースを上げ9台目まで15歩で走ったが、最後は16歩で逆足になり失速した。前半のスローペースによる遅れを後半で取り戻すことができず、組4着となった。

男子3000mSC決勝

1組8着 安西聡(3) 10'35"23

1組11着 高橋慧伍(4) 11'00"51

高橋はスタート直後から積極的に先頭についていき、先頭集団で1000mを3'16"で通過。安西はやや抑えめで1000mを3'26"で通過。高橋はそこからペースが落ち、後続に抜かれる厳しい展開に。安西はスピードを保ち粘りを見せる。安西はラスト1000mも3'30を切るタイムでカバーし、8着でゴール。

自己ベストを10秒以上更新した。高橋はレース終盤もペースが上がらず11着でゴール。

2組16着 田中翔悟(3) 10'27"58

スタートから1000m過ぎまで先頭集団に着いて行くも、障害や水濤を越える度に距離を開けられて行った。明らかに障害を越える練習が不足していた。その後1200mを超えたあたりから大きくペースが落ちそのまま持ち直すことが出来ずゴール。PBを更新したが目標には届かなかった。

男子10000mW・女子10000mW決勝

8着 及川一真(1) 50'34"15

12着 森渉(2) 54'20"84

5着 白井花(1) 58'58"29

小雨の中のスタートとなったが、10分後には雨も止み涼しい気候でのレースとなった。及川は2000m付近までは前方の選手につきリズムに乗ることができた。白井が森を1000mまでは引っ張りその後森が白井を抜かした。白井は苦しい様子となり、森から離れた後単独歩となる。及川は2000m通過後前方の選手を抜き、新たに3人の集団をつくる。森と白井は互いに単独歩となるが1000mごとのラップは落ちることなくイーブンペースで刻めていた。及川はラスト1周まで集団についていき、残り200mで離れるもののラストスパートをきめて8位入賞でフィニッシュした。森、白井も最後までピッチを落とすことなくフィニッシュし、3選手とも無事に完歩することができた。

男子4×100mR予選

3組5着 42"44

本間(M1)-藤井(2)-竹原(4)-阿部(3)

本間：スムーズなスタートダッシュを決め、加速もなめらかで中間疾走もキレのある走りを見せたが、2走へのバトンパスがかなり詰まってしまった。

藤井：力強い走りで一気に加速。中間疾走で体がグラつき、やや減速した状態でバトンパス。バトンパス自体はスムーズだった。

竹原：バトンを受け取り加速するも、スピードにうまく乗り切れない。他大と差をつけられたまま、4走へバトンパス。受け渡しはスムーズだった。

阿部：バトンを受け取り、一気に加速。中間疾走も伸びのある走りを見せたが、他大との差をなかなか詰められず、5着という結果に終わった。

女子4×100mR予選

2組6着 50"98

渡邊(3)-加藤(3)-吉村(2)-佐々木(1)

渡邊：スタートから勢い良く飛び出しスピードに乗る。後半インレーンの選手に追い上げられ若干硬くなるも、良い走りで2走へ繋ぐ。

加藤：出のタイミングが早く、バトンパスに失敗。1走が届かずここでタイムロスが生じる。走り自体もピッチが上がらず、他校に差を広げられ苦しい展開になる。

吉村：出のタイミングでよろめくが、うまく修正して丁度良い距離で2走からバトンを受け取る。得意のカーブでスピードに乗る。

佐々木：ここでもバトンが決まらず、バトンゾーンぎりぎり3走からバトンを受け取る。大きな走りで前の選手を追うが、そのまま6位でゴール。

男子4×400mR予選

2組4着 3'20"42

小幡(3)-阿部(3)-南(M2)-水戸部(2)

小幡：まずまずのスタートを切り、カーブを軽快に走り抜ける。そのままスピードに乗ってバックストレートを駆け抜けた。しかし、第3コーナーをさしかかったと同時に足の回転が鈍くなり始める。ホームストレートでは減速を抑えて粘ったものの、他大と差をつけられた。

阿部：バトンを受け取ると前との差を詰めるため最大限のスピードを出す。バックストレートでの走りは非常に滑らかで伸びがあり、他大をかわす。第3コーナーからホー

ムストレートにかけて大きな減速もなく、ラップ48秒の軽快な走りを見せてくれた。南：前後に他大がいる状況でバトンを受ける。カーブからバックストレートにかけては、持ち味のきれいで流れるようなフォームを見せたが、スピードが上がり切らなかった。第3コーナーからホームストレートにかけてはブレのない走りで順位を維持し、アンカーへバトンを渡す。

水戸部：カーブではキレのある力強い走りをし、申し分のないスピードでバックストレートを駆け抜ける。得意の後半で粘りのある走りを見せたが、前の選手との差を詰めることができず、4着でゴール。

女子4×400mR予選

1組5着 4'07"79

佐々木(1)-吉村(2)-渡邊(3)-加藤(3)

佐々木：前半から大きなストライドで攻めていくが、他校のスピードに敵わずやや遅れをとる。ラストも体は動いているが、疲れが見られた。前の選手を必死に追いかけて2走へ繋ぐ。

吉村：前半はゆったりとしたペース。オープンレーンに入り他校の選手がスピードを上げるが、ついていくことが出来ない。ラスト100mで後続に抜かれ、必死にくらいつく。

渡邊：目の前の選手の背後に付き、バックストレートで追い抜く。200mを過ぎたあたりで走りが大きくなり、更に前の選手との距離を縮める。ラスト50mで疲れが見られる。

加藤：前の選手と距離があいてしまったが、大きなストライドで前半から攻める。そのまま前を追い、ホームストレートで追い抜いて5位でゴール。

男子走高跳

16位 藤井佳祐(2) 1m85

180からスタート。1本目は100m予選後だったため助走が乱れてしまった。流れたが何とかクリアした。185、1本目は助走が遅かった。最後の踏切がしっかりできず失敗。

2本目、最初はスピードを抑え最後テンポアップすることができクリア。190、1、2本目は助走が合わず失敗。3本目、リズムはとれたもののクリアランスがうまくいかず失敗。

大塚祐貴(2) NM

踏み切り足を左から右に変えてから初めての大会。助走はまだ歩数とマークを見ながらでなければできないし、クリアランスもほとんどできていない。180からスタートで大きな挑戦ではあったが、2本目に腰がバーを少し超えたあたりまで上がって、決して不可能な挑戦ではないと思われた。

男子棒高跳

2位 高橋拓実(3) 4m60

得点のために安全に4m50からスタート。1回目はバーを大きく超え成功。バーは4m60へ。幅のない跳躍だったが1回目で成功。バーは4m70へ。1回目は幅のない跳躍で失敗。2回目は体が上がらなかった。3回目、体はバーを超すもまたも幅のない跳躍となり失敗。今季ワーストであったが2位。

男子走幅跳

3位 岡部大輝(M1) 7m31(-1.8)

助走が終始遠く、少し間延びしてしまった。それに伴い上半身が後ろに残り、踏切きれない跳躍になってしまった。また、上半身が後ろに残ったまま空中動作に入ってしまったので、空中でタメが作れず、余裕のない着地動作になってしまった。とはいえ、安定して7m台の跳躍を5本揃えることができた点は評価したい。

22位 今泉裕真(1) 6m40(-1.0)

1本目、やや踏切時に潰れ高さが出なかった。記録は6m40。2本目、踏切をしつかりしようという意識が強すぎ、逆に力んでしまい一本目よりも潰れてしまった。記録は5m80。3本目、これも踏切時の衝撃に耐えられずに力を上に持っていくことが出来ずに低い跳躍となった。記録は6m06。全体的に練習不足が原因と考えられる。

46位 平川裕太(1) 5m62(-2.6)

1本目、身体全体に力が入った。助走の歩幅が大きくなりファール。2本目、1本目がファールだったために置きにいった跳躍。スピードが出ず、踏切にも力がなかった。記録は5m62。3本目2本目よりもスピードを上げたが、跳躍姿勢を取れていなかった。勢いを残した形で着地した。記録は5m61。

女子走幅跳

21位 後藤文子(4) 4m39(+0.7)

スピードが足りない上に、踏切も潰れた跳躍であった。3本全てに共通して、動きに硬さが感じられたこと、反発を推進できずに上に逃がしてしまっていた。

22位 吉田歩(3) 4m32(+0.7)

1本目にスピードのある助走ができ、自己ベスト更新。初めて跳躍らしい動きが見られた。2,3本目は疲れが出て記録は伸びなかったが、歩幅を小さくする点や視線についてコツを掴めたようだった。

男子三段跳

8位 岡部大輝(M1) 14m39(+0.5)

1~2本目は全く噛み合わず。向かえた3本目、助走をうまくコントロールでき、うまくまとめることが出来た。4本目、3本目で掴んだ感覚をものにし、この日一番の跳躍をしたがファール。5~6本目、疲労がたまってしまう本数を重ねる毎に助走スピードが落ち、飛距離も落ちてしまったように感じた。全跳躍において力任せな跳躍をしまい、ステップがつぶれ気味の跳躍となってしまった。技術的な問題が多々あり、いかに克服していくかが今後の課題である。

12位 須藤海(3) 14m12(+1.3)

1本目、跳躍動作にゆとりを持って助走。跳躍三歩は大きく崩れなかったが、スピードが足らず距離には結びつかなかった。記録は14m01。2本目、1本目よりも助走速度を上げて跳躍。わずかに伸びる。まだ助走スピードを上げられそうであった。記録は

14m12。3本目、スピード意識の助走であったが、序盤から刻んでしまい踏切版まで足が届かず。ステップ動作に入れず失敗跳躍になった。

佐藤文哉(3) NM

動きは悪くなかったが、東北ICでの怪我以降の試合で、技術的な調整不足が目立った。特にステップで大きく失速することが影響し3F。最後のシーズンでの飛躍を誓い、冬季練習への強い意気込みを見せている。

女子三段跳

8位 渡邊朝美(3) 10m94(+1.9)

混成やり投げと同時刻での競技開始で少しばたばたした。調子は悪くなく、ホップステップジャンプのリズムが普段よりも一定で跳べて記録も安定していた。3本目にかけて記録を伸ばしていけたことは収穫であった。しかし小さくまとまってしまった感じがあり、どこかで爆発力が欲しかった。

18位 後藤文子(4) 9m37(+0.1)

3本共に力みがあり、スピードが足りない跳躍となった。PBを更新したが、踏切、空中動作、それぞれタイミングが暮れていることをはじめ、まだまだ改善点が多い。

男子砲丸投

16位 佐藤雄也(3) 9m41

個人選での反省を踏まえ、グライドのテンポや下半身から上半身への力の伝達を考えながら試合に臨んだ。雨が影響したのか、1投目ではグライドでサークル中心に持ってきた右足が滑り上体だけでの投げになってしまった。2投目以降は滑らないように対策を施し、要点を絞り技術面を考えながら投げたが、思うようにグライドのスピードが上がらず砲丸に力がほとんど加わらなかった。練習で出来ていたことが本番になると出来なくなっていると感じられた。

女子砲丸投

14位 吉田歩(3) 6m85

3本とも力が入らない投擲となり、ステッ

プにも勢いがなかった。技術はもちろん、全体的にパワーが足りず、冬季練習で技術・筋力共に基礎を固めていく必要がある。

15位 佐藤由莉(1) 6m80

初の砲丸投の対抗戦。ステップなどをせずにその場投げをしたが顔が先に動いてしまい砲丸と一体となった動作ができず潰れて低い軌道となった。その後、思い切ってチャレンジするも二回ともファール。3投全て投げ出し時に右足が地面から離れていた。

男子円盤投

20位 工藤航平(3) 25m68

ターンをして立ち投げでの自己新を上回ることを目標に出場した。1投目はとりあえずそれなりの記録を残して2投は思いきりの良い投げをしようとした。結果思い通りの展開だったが、2投目はターン中にバランスを崩し、3投目は全体的に上手くいったのだが円盤が縦に飛んでいってしまい記録を伸ばすことはできなかった。

男子ハンマー投

7位 酒井利晃(M1) 33m69

雨が降る中で挑んだ一投目は回転が遅いが確実に置いていく投げをした。雨が強くなりサークルのコンディションが更に悪くなるが二投目で勢いを付け記録を伸ばす。三投目はターンの正確さに欠け、全く飛ばなかった。三投終了時点で5位だったが、雨が止み他の選手が記録を上げる中、その勢いに乗ることができなかった。四投目はターンの接地が早くなりハンマーが右に逸れてファール。五投目ではフィニッシュ時に体勢が崩れて記録が伸びなかった。この時点で順位は7位に落ちた。巻き返しを狙ったが、また体勢が崩れてしまい結局7位。

8位 野尻英志(1) 32m00

シーズン最終戦。体調もグラウンドコンディションもかなり悪い大会であった。1投目は水で滑り、2ターンだったが体勢が崩れてしまった。2投目・3投目は体勢をこらえ

るのが精いっぱいだったが、何とかベスト8に残った。ここで大方天候が回復し、他の選手が次々と記録を伸ばす中、4,5,6投目であまり記録を伸ばせなかった。体調・天候だけでなく自力不足も目立った内容だった。

男子やり投

27位 工藤航平(3) 44m22

個人戦に続き低調な記録に終わった。試験的な意味合いも兼ねていた個人戦に比べて、今大会は対抗戦ということで記録を求めて試合に挑んだのだが、タイミングがずれているのか感覚的にしっくり来ない投擲が続いた。練習の立ち投げでは比較的良い投げができていたので、今期は疎かになっていた生命線の助走とクロスの流れからの投げができるようにしていきたい。

男子十種競技

6位 佐藤弘隆(3) 5548点

関東強豪校や参加人数も多い大会とあり、非常に楽しみな十種競技となった。初日最初の100mで大学ベスト、幅も好記録、砲丸もベストと幸先良くスタートするも高で今季ワーストと失速。しかし最終種目の400mで自己ベストを更新し、良い流れで初日を終了した。二日目最初の110mHでは疲労から記録が伸びず、雨で円盤、棒高、やりも低い記録に終わるが、最終種目の1500mでは全体応援のお陰でしっかり走りきり自己ベストを更新し、しっかり10種目まとめることができた。最終的に6位入賞、自己ベストとまあまあ良い結果を残すことができた。

女子七種競技

7位 渡邊朝美(3) 3781点

1年ぶりの混成競技であった。ハードルは中盤からバランスを崩し、走高跳・砲丸投ともに低調な記録。マイルリレーを間にはさみ200mも厳しい戦いで初日を終了した。2日目、走幅跳は風にうまく対応できず、やり投げでようやく自己ベストを出すも、最終800mでは体が全く動かなかった。

◎第 44 回東北学生陸上競技選手権大会(10/2～4)・仙台市陸上競技場

強風が吹く難しいコンディションながら、東北大学各選手健闘を見せました。各種目 8 位以上の選手の結果を掲載します。

種目	氏名 (学年)	順位	記録
男子 800m	西京 毅(3)	7 位	2'01"90
男子 1500m	佐藤 宏夢(1)	6 位	4'15"17
	西京 毅(3)	7 位	4'18"70
男子 5000m	高橋 佳希(4)	2 位	15'15"63
	笠間 淳平(1)	3 位	15'18"34
	古澤 哲平(M2)	4 位	15'23"22
男子 10000m	高橋 佳希(4)	1 位	31'58"80
男 110mH	工藤 翼(2)	5 位	15"48
	本間 大輔(M1)	8 位	15"68
男子 400mH	小幡 卓哉(3)	5 位	56"20
男子 3000mSC	高橋 仙一(3)	5 位	9'56"98
男子 10000mW	森 渉(2)	8 位	55'12"05
男子 4×400mR	竹原 大(4)-畑岡 進(5)- 千葉 優人(5)-佐々木 優人(4)	7 位	3'24"26
男子棒高跳	高橋 拓実(3)	4 位	4m60
	高橋 昇之(1)	7 位	4m40
男子ハンマー投	野尻 英史(1)	7 位	34m52
女子 200m	吉村 梢(2)	7 位	26"85
女子 800m	星屋 美優(1)	8 位	2'41"79
女子 1500m	榊原 真璃子(4)	7 位	5'02"25
女子走幅跳	渡邊 朝美(3)	8 位	4m87
女子三段跳	渡邊 朝美(3)	2 位	10m70
	後藤 文子(4)	6 位	10m18
女子円盤投	青木 千景(3)	6 位	29m36
女子やり投	佐藤 由莉(1)	6 位	27m00
	青木 千景(3)	7 位	26m93

◎OB・OG 対現役対校戦(10/17)・評定河原競技場

天候に恵まれ、晴天の中で OB・OG 戦が開催されました。結果を掲載します。

・トラックの部

氏名	100m(秒)	得点	1500m(秒)	得点	400m(秒)	得点	走最高得点
佐藤 弘隆	11.54	745	315.12	477	53.63	656	745
高橋 拓実	11.18	822		0		0	822
岡崎 和貴	12.25	604		0		0	604
藤井 佳祐	11.9	672	388.31	161	58.76	457	672
西京 毅	12.71	519	253.67	856	54.32	627	856
奥 裕之	12.47	563	330.13	400		0	563
田中 翔悟	12.92	482	257.5	830	60.5	397	830
大塚 祐貴	11.98	656		0		0	656
工藤 航平	13.08	455		0		0	455
松田 将大	12.71	519	261.38	803	54.71	612	803
今泉 裕真	12.18	617	378.31	195	57.03	521	617
佐藤 文哉	12.53	552		0		0	552
勝井 友樹	11.9	672	378.59	194	59.24	440	672
佐藤 宏夢		0	253.29	859		0	859
古川 楓	12.17	619	297.26	577	56.48	542	619
岩波 発彦	12.16	621	292.36	606	56	560	621
高橋 仙一	13.19	437	265.17	778		0	778
川口 航汰	12.38	579	277.9	695	54.63	615	695
早坂 謙児	13.76	348	258.11	826	59.11	445	826
高橋 慧伍	13.13	447	272.84	727		0	727
渡邊 裕一郎	12.36	583		0		0	583
碓井 将也	14.07	303	271.4	736		0	736
渡邊 俊	12.64	532	273.8	721	58.31	473	721
荒田 啓輔	12.97	474		0	57.3	511	511
千葉 智史		0	293.75	597		0	597
楠木 啓介	12.51	555		0	56.79	530	555
吾妻 祐介		0	276.72	702		0	702
藤原 啓	14.05	306	283.34	660	64.93	262	660
安西 聡	13.79	344	273.14	725		0	725
平川 祐太	12.3	594		0		0	594
畑岡 進		0	333.16	385		0	385
竹原 大		0	278.48	691		0	691
富田 航	14.02	310	297.65	574		0	574

石郷岡 俊介	12.54	550		0		0	550
南 共哉	11.72	708		0		0	708
岡田 圭太	13.54	381	284.58	653		0	653
根谷 温	14	313	356.11	281	69.01	160	313
田中 悠貴		0		0	60.79	388	388
及川 一真	13.7	357	301.08	555		0	555
大野 慎也		0	277.53	697	58.88	453	697
上條 広裕希		0	280.46	678		0	678
三上 和樹		0	250.27	880		0	880
佐藤 雄也	14.76	214		0		0	214
小幡 卓哉		0		0		0	0
久保 正樹	13.79	344		0		0	344
堀越 涼		0		0		0	0
箕輪 純尚		0	337.65	363		0	363
嶺岸 雄太	13.76	348		0		0	348
山根 由経		0	268.25	757		0	757
佐藤 勝成	12.9	486		0		0	486
森 涉		0	275.99	707		0	707
矢川 省吾		0	279.84	682		0	682
西井 大樹		0	302.85	544		0	544
清野 雄太		0		0		0	0
真山 隆徳	16.28	68	348.65	313		0	313
楠 哲也		0		0		0	0
山下一也		0		0		0	0
古澤 賢一郎		0		0		0	0
岡部 大樹		0		0		0	0
宝田 拓馬	14.63	230	327.17	414		0	414
萩原 文博		0		0		0	0
高橋 圭一郎		0		0		0	0
森野 太介		0		0		0	0
津嶋優希		0	308.6	512		0	512
瀬良将太		0	369.5	228		0	228
女子の部							
吉村 梢	14.02	602	403.27	279	68.85	387	602
飯田 夏生	15.93	338	315.6	727	71.25	317	727
卜部 仁美	17.04	216	338.78	590		0	590
吉田 歩	15.71	365		0		0	365

佐藤 由莉		0	439.93	151		0	151
阿部 春花	15.89	343	339.23	587		0	587
門田 佳奈	17.26	195	342.75	567		0	567
山田 千夏	16.58	264	361.81	466		0	466
中村 真璃子		0	445.82	134		0	134
佐々木 千肅		0		0		0	0
須田 桜	17.41	181		0		0	181
星屋 美優	16.34	290		0	78.32	147	290
村山 友里		0	381.65	371		0	371
西條 詩織	17.73	153		0	81.03	98	153
岸田 晶穂	18.18	117		0		0	117
白井 花	19.05	60		0		0	60

・フィールドの部と総合得点

氏名	幅 (cm)	得点	高 (cm)	得点	最高 得点	砲丸 (m)	得点	やり投 (m)	得点	最高 得点	総得点
佐藤 弘隆	601	590	150	390	590	8.3	385	39.83	441	441	1776
高橋 拓実	574	532		0	532		0	32.97	342	342	1696
岡崎 和貴	623	638		0	638	6.93	304	36.5	393	393	1635
藤井 佳祐	560	503	175	586	586	7	308	25.6	239	308	1566
西京 毅	505	393	155	427	427	6.46	277	24.19	219	277	1560
奥 裕之	500	383	170	545	545	7.68	348	36.1	387	387	1495
田中 翔悟	469	325	130	251	325	5.18	202	31.41	320	320	1475
大塚 祐貴	616	622		0	622		0	21.44	182	182	1460
工藤 航平	540	462		0	462	8.79	414	45.08	517	517	1434
松田 将大	505	393	140	318	393	4.85	183	25.53	238	238	1434
今泉 裕真		0	155	427	427	8.32	386		0	386	1430
佐藤 文哉	554	491		0	491	6.21	262	33.14	345	345	1388
勝井友樹	504	391	160	465	465	5.95	247		0	247	1384
佐藤 宏夢	465	318		0	318	5.2	203		0	203	1380
古川 楓	545	472	140	318	472	6.58	284	22.51	196	284	1375
岩波 発彦	510	403	120	189	403	5.91	245	33.52	350	350	1374
高橋 仙一	415	231	140	318	318	6.03	252		0	252	1348
川口 航汰	513	408	145	353	408	5.87	242	24.82	228	242	1345
早坂 謙児	430	256	125	219	256	5.87	242	22.81	200	242	1324
高橋 慧伍	487	359	135	284	359		0	24.2	219	219	1305
渡邊 裕一郎	520	422		0	422		0	27.97	272	272	1277

碓井 将也		0	135	284	284	6.03	252		0	252	1272
渡邊 俊	494	372	145	353	372	4.55	166	16.65	118	166	1259
荒田 啓輔	530	442	160	465	465	6.16	259	28.62	281	281	1257
千葉 智史	506	395		0	395	5.63	228	21.32	180	228	1220
楠木 啓介	519	420	145	353	420	5.7	232		0	232	1207
吾妻 祐介	440	274		0	274	5.59	226		0	226	1202
藤原 啓	449	289	115	160	289	5.48	220		0	220	1169
安西 聡		0	130	251	251	4.78	179		0	179	1155
平川 祐太		0	145	353	353	5.19	203		0	203	1150
畑岡 進	504	391	125	219	391	7.51	338		0	338	1114
竹原 大		0		0	0	5.21	204	34.41	363	363	1054
富田 航	424	246	120	189	246	4.68	174	22.91	202	202	1022
石郷岡 俊介	528	438		0	438		0		0	0	988
南 共哉		0		0	0	6.48	278	22.29	193	278	986
岡田 圭太	365	153	115	160	160	4.58	168		0	168	981
根谷 温	465	318	135	284	318	7.23	322	27.37	263	322	953
田中 悠貴	587	560	155	427	560		0		0	0	948
及川 一真	397	202		0	202	4.98	191		0	191	948
大野 慎也		0	130	251	251		0		0	0	948
上條 広裕希	430	256	125	219	256		0		0	0	934
三上 和樹		0		0	0		0		0	0	880
佐藤 雄也		0	120	189	189	9.64	465	17.54	130	465	868
小幡 卓哉		0	165	505	505	7.9	361		0	361	866
久保 正樹	428	253		0	253	5.47	219		0	219	816
堀越 涼	506	395		0	395		0	38.32	419	419	814
箕輪 純尚		0		0	0	8.9	421	26.63	253	421	784
嶺岸 雄太		0	155	427	427		0		0	0	775
山根 由経		0		0	0		0		0	0	757
佐藤 勝成		0		0	0	5.95	247		0	247	733
森 涉		0		0	0		0		0	0	707
矢川 省吾		0		0	0		0		0	0	682
西井 大樹		0		0	0		0		0	0	544
清野 雄太		0	145	353	353		0	21.96	189	189	542
真山 隆徳	287	52		0	52	4.72	176		0	176	541
楠 哲也		0		0	0	10.34	507		0	507	507
山下 一也	521	424	165	505	505		0		0	0	505
古澤 賢一郎		0		0	0		0	41.6	466	466	466

岡部 大樹		0		0	0	9.41	451	31.1	316	451	451
宝田 拓馬		0		0	0		0		0	0	414
萩原 文博		0		0	0	8.64	405		0	405	405
高橋 圭一郎		0	140	318	318		0		0	0	318
森野 太介		0		0	0	5.66	230	31.28	318	318	318
津嶋 優希		0		0	0		0	29.5	293	293	805
瀬良 将太		0		0	0		0		0	0	228
女子の部											
吉村 梢	420	356	120	313	356	5.81	260	10.55	117	260	1218
飯田 夏生	272	64	105	181	181	4.71	191	8.4	79	191	1099
卜部 仁美	343	187		0	187	5.81	260	12.47	152	260	1037
吉田 歩	399	307		0	307	7.04	339	19.51	281	339	1011
佐藤 由莉	452	434	120	313	434	6.96	333	23.43	354	354	939
阿部 春花		0	105	181	181		0	10.68	119	119	887
門田 佳奈		0	105	181	181	3.57	121	8.1	73	121	869
山田 千夏	352	205		0	205	4.54	181		0	181	852
中村 真璃子		0	140	513	513		0		0	0	647
佐々木 千肅		0	125	360	360	5.23	224	13.45	169	224	584
須田 桜		0	105	181	181		0	15.51	207	207	569
星屋 美優	297	103		0	103		0	9.63	100	100	493
村山 友里		0		0	0		0		0	0	371
西條 詩織	247	31	0	0	31	2.64	65	9.41	97	97	281
岸田 晶穂		0	0	0	0		0	12.66	155	155	272
白井 花		0	0	0	0		0	13.7	174	174	234

◎秋保マラソン(11/7)

曇り空の走りやすい気候の中で、秋保マラソンが開催されました。各部門の優勝者と参加されたOB・OGを紹介します。

- ・18km の部 酒井洋輔(1) 57'30"
- ・短距離1位 津嶋優希(2)73'45"
- ・跳躍1位 須藤海(3)89'28"
- ・投擲1位 工藤航平(3)96'15"
- ・9km の部 田中翔悟(3) 27'21
- ・マネージャーの部 大槻あすみ(3) 42'34"
- ・4km の部 加藤かあら(3)17'26"

参加されたOB・OG(敬称略)

菅原 質 (S42)、佐藤 健二 (S52)、佐藤 源之 (S55)、真山 隆徳 (S56)、渡邊 裕生 (S62)
彦坂 幸毅 (H2)、吉田 真人 (H9)

◎平成 27 年度秋季三秀総会ならびに忘年会のお知らせ

秋季三秀総会ならびに三秀会忘年会を下記の要領で開催します。皆様ご多忙の折りとは存じますが、ご参加いただきますようご案内申し上げます。

日時 : 平成 27 年 12 月 6 日 (日) 16 時から 18 時
(幹事会 : 15 時から 16 時)

会場 : 新宿 ビアレストラン ライオン会館
JR 新宿駅、メトロ新宿三丁目益から徒歩 3 分、
<http://r.gnavi.co.jp/g160501/>

会費 : 5,000 円

申込先 : 三秀会幹事長 柴田 清 (昭和 52 年卒)

TEL&FAX : 047-478-0344

E-mail : shibata.kiyoshi@p.chibakoudai.jp

締切 : 11 月 29 日 (日)



◎自己ベスト更新者(9/24～11/8)

- | | |
|--|--|
| ・男子 100m
佐々木 優人(4) 11"06(+1.6)
(国公立 25 大戦) | ・男子 5000m
南雲 信之介(4) 15'53"94 (個人戦)
早坂 謙児(3) 16'01"22 (個人戦)
熊谷 駿(3) 16'42"53 (国公立 25 大戦) |
| ・男子 200m
佐々木 優人(4) 22"39(+0.7)
(第 8 回仙台大記録会) | ・男子 110mH
本間 大輔(M1) 15"15(+0.9)
(国公立 25 大戦) |
| ・男子 800m
松田 将大(1) 1'58"68
(第 8 回仙台大記録会) | ・女子 1500m
榊原 真璃子(4) 5'02"25 (個人戦) |

◎今後の予定

- ・ 12月6日(日) 秋季三秀総会・忘年会(東京)
- ・ 3月 春合宿
- ・ 3月 三秀会卒業祝賀会(仙台)

◎編集後記

国公立 25 大戦や全日本大学駅伝といった大きな大会が終わり、冬季練習の時期になってきました。冬季に地道な練習を積み重ねることが来季の活躍のために重要だと考えられます。今季の反省を生かし、来季に飛躍していくためにも、部員一同冬季練習に励んでまいりますので、今後とも応援よろしくお願ひします。

文責 副務 吾妻祐介

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1

東北大学評定河原グラウンド内

hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp